



大川中央公園におけるトイレ設置について
強制排水ポンプの進捗状況について
石橋 忠敏 議員

本市斎場の管理条例の改正あり
がとうございます。

問 大川中央公園トイレ設置につ
いて具体的な答えをいただきたい。

答 来園者の利便性向上のため、
駐車場、トイレ等の施設整備を検
討していく必要があると思われる
、当面の措置として改修計画にお
けるトイレ需要等のモニタリングの
意味を含め、公園北東部分に仮設
トイレを設置したいと考えている。

問 新橋川の排水ポンプについて、
現在、新橋川最下流の新橋水門に

8トン1基、上流の中古賀水門に
8トン1基の計2基の県事業が発
表されているが、2か所の排水ポ
ンプ設置の予算があるのであれば、
費用対効果の点からも県の事業と
しての事業評価においても最下流
の新橋水門に2基分の予算で能力
の大きな排水ポンプを設置するこ
とはできないのか。県に対しどの

ような要望をしているか。

答 石橋議員と一緒に私も16トン
になったら最高だと思い、再三、
父と共に何回も国交省にこり押し
した。しかし、国県に16トンは絶
対無理だと言われる以上、たとえ
何万人の市民の署名があつても、
将来、これが正しく、本市のため
になるなら、私はやろうと思う。

問 国交省が8トン以上の水量を
筑後川に排出する事は絶対に許可
しない理由は何か。

答 それは、国交省、あるいは県
にしっかりと聞きたいと思う。

意見 できる可能性がありながら、
何もできないでは、本市は前に進
めない。だから市長も言うように、
私にやれるだけやってみると言う
のであれば、私はやるだけやりま
す。どこまでやれるか分からない
けど、自分でやると信じた以上は
私が墓場に入るまでやります。



防災について
インテリアシティ大川について
池末 秀夫 議員

問 災害時、隣接する佐賀県側の
自治体との連携はあるか。

答 消防法に基づき、佐賀の広域
消防と本市との応援協定はあるが、
内容は火災や救急、救助である。

問 防災について、避難勧告、避
難指示を適時に出せているか。

答 国と県は空振りでもいいから
情報を流しなさいと言われるが、
信じてもらえなくなるのが一番怖
いので、段階を踏んでしっかりと
した情報を伝達していきたい。

問 防災無線は、適正な配置であ
るか、設置を増やす考えはないか。

答 校区ごとに公民館単位で59箇
所設置しており、聞こえにくいと
の苦情等は来ているが防災無線の
設置を増やすことは考えていない。

問 防災ラジオの無料配布は。

答 全世帯への無料配布は今のと
ころ考えていないが、企業等から
協賛があれば市民の負担も軽減で

きるので検討させていただきたい。

問 市民からモーターサイレンの復
活の要望があるが検討されるか。

答 切替え後も消防団員の火災出動
率に差はなく、現行どおり防災無線
のサイレン吹鳴を活用し、モーター
サイレンの復活は考えていない。今
後、消防団の火災出動に支障が起き
れば対応を消防団と協議していき
たい。

問 インテリアシティ大川のイメー
ジアップについてはどうか。

答 緑あふれる並木道、大川らしい
特色あるお洒落な街並みの風景や、
外観は必要だと思う。新たに新店さ
れる事業者や企業の方には機会があ
る時に、大川のインテリア製品を取
り入れてもらうことや、外観などを
木のイメージにしていたくように
お願いしている。今後もイメージ
アップにつながるようなまちづくり
に努めていく。



集落の中の道路・水路整備について
学校給食について
水落 常志 議員

問 集落内の道路及び水路に対す
る行政区からの要望件数と現在の
整備状況は。

答 道路は、舗装補修を初め、側
溝・護岸等の維持工事の要望件数
が、平成17年度から26年度までの
10年間で582件、そのうち処理
件数は389件。26年度は要望件
数28件、処理件数は31件。また、
比較的軽微な修繕は、年間700
件を直営工事に対応している。

問 生活の場である集落内の道
路・水路の整備はできないのか、
また、遅れているのか。

答 水路整備は、国・県の補助事
業に乗る分は計画的に進めている。
特に集落内の水路等は、そのよう
な補助事業に該当せず市単独の費

用で整備するため遅れている。

答 生活道路は、舗装後、40年ほど
経過し更新時期を迎えているが、
需要も多い。現在のところ補助事
業が見当たらないため、限られた
予算の中で少しずつではあるが舗
装補修を市が行っている。

問 学校給食における食物アレルギー
への対応は。

答 現在アレルギー対応の児童・
生徒は31名。発症の原因となる食
材はエビ・卵・牛乳・ピーナッツ
等である。アレルギー調査に基づ
き、対応を希望される保護者と学
校及び栄養教諭で情報を共有し、
除去食、代替食で対応している。

問 外国産など使っているのか。

答 魚類は国産だけでは賄えず、ノ
ルウェー産など使用するケースも
ある。できるだけ大川産で賄うが、
できないものは県産で対応してい
る。



高齢化社会に向けての取り組みについて
義務教育における学力向上に向けての
取り組みについて
宮崎 稔子 議員

問 高齢化社会に向け、本市では
どのように対策を考えているか。

答 地域包括ケアシステムの構築
に向けて、さわか福祉財団と包
括連絡協定を締結している。また、
2月には、市民向けの地域支援事
業フォーラムを開催し、各地域で
の生活支援体制について、話し合
いの場を設ける予定である。

問 多くの自治体が実施している
介護支援ボランティア活動へのポ
イント制度の導入予定は。

答 これからは高齢者を、市全体
で支えていくまちづくりが必要と
なるので、今後ポイント制もあわ
せて総合的に検討したい。

問 小中学校の空調設備が整って、
学習できるのはいつになるのか。

答 統廃合の再編計画が固まった
後に、できる限り早い段階で検討
しなければいけないと思っている。
問 塾に行かずとも、集中して学

習したい学生のために、大木町のよ
うに夜間、勉強できる場所の提供は
できないか。

答 文化センターロビー、ワークピ
アは夜10時まで開いているので、
勉強するのは可能である。また、学
生も含め、若い方々の定住促進の仕
組みの一つとして考えており、アン
ケート調査など行った上で、施設の
開放等検討したい。

問 大幅に増加した学習内容に伴い、
貧困層への教育支援も含め、本市の
全ての小中学生に、基礎学力の定着
を目指した教育施策を整える必要が
あると思うが。

答 他市には負けない活動を、教育
現場、子育て、学生のためにやって
いきたい。

要望 学すべき自治体をしっかりと
と研究し、本市の子どものため
に行政として努力を惜しむことなく
力を注いでいただきたい。